

望岳山荘

いっ

もう二カ月近く経ってしまっただが、わが国の地方の一町村が国際化時代を担って世界への窓口を大きく開きつつある感動的なシーンの数々を体験した。それは兵庫県社町が六月二日にオープンした「やしろ国際学習塾」の一連のプログラムである。

社町は中国山脈の支脈に囲まれた人口わずか二万そこそこの町で、古くから灘の酒米どころだといえ、ともかく大阪空港から車を越えて約一時間

もかかる僻地である。

その社町が石古敷町長

以下のユニークな発想

で「世界に通ずる文化

の発信源」をモットー

に国際化時代の拠点都

市をめざし、自治省か

らリーディング・プロ

ジェクトの指定を受け

て「やしろ

国際学習

塾」という

多目的ホ

ルをつくっているこ

と、他の町村とは異な

った産学住一体の学園

都市(国立の兵庫教育

大を中心とする)であ

ることは耳にしていた

けれど、実際に現地を

訪れてみて看板にいつ

わりなきことを確認し

たばかりか、私自身多

くのことを学んだ二日間であった。

私自身は、オープニ

ング記念の「国際化と

地域社会」と題する国

際シンポジウムにパネ

リストの一人として招

かれたのであるが、で

きれば妻も同伴しヴァ

驚いたことに、私たち

の宿舎は東京の一流ホ

テルでもこんなに素晴らしい

雰囲気は出せない

と思われるほど瀟洒

なもので、フルコース

のフランス料理は、大

阪ロイヤルホテルの前

シェフによって提供さ

れた。食後

は町長以下

の関係者を

前に私と光

田夫人、それにこの夜

のために参じて下さっ

たヴァイオリンとヴェ

オラの元大阪フィルの

二人の女性奏者が加わ

って手造りの弦楽四重

奏という次第である。

モーツァルトのアイネ

・クライネやディベル

ティメント、それにハ

イドンのひばりなどを

弾いて私も楽しみ、皆

さんにも楽しんでた

だいたのだが、大変印

象的な第一日であっ

た。

翌日のシンポジウム

はロバート・ネヴィッ

ト米国公使夫妻らも加

わって盛会であった

が、この日は町の農家

の人びとも初めて同時

通訳のイヤホーンを使

い、私たちの論議に真

剣に耳を傾けてくれ

た。こうして社町の二

日間、私にとつての

貴重な日本再発見にも

なったのである。

(中嶋 嶺雄・東京外

国語大教授)

やしろ国際学習塾